

## 【小 論 文】

### 【出題趣旨】

第二次大戦後、悲惨な戦争を招いた一要因である軍国主義を払しょくし、新たな社会的理念を構築するために、多くの社会学者が意欲的な取り組みを進めたが、その中心的な理念として議論されたのが平和主義であった。丸山眞男を出発点として平和主義の意義と課題を一つの論点として展開した森政稔著「戦後『社会科学』の思想」（2020年）を素材として、当然の前提として受け止められてきた平和主義につき、実際には重要な問題点を内包していることを踏まえて、あらためてその意義を客観的に検討することを求める問題である。

問題は、筆者の平和主義に対する評価につき、なぜそのような評価に至ったかを正確に理解すること、および筆者の考えに対する解答者自身の評価を的確に記すことを求めている。本問は、ある意見に対する正確な理解と、それに対する適切な評価・対応をすることは法曹に求められる基本的資質の一つであるとの認識を背景としている。

### 【採点基準】

採点に当たっては、第一に、筆者が平和主義に対して留保付きの評価をしていることを理解したうえで、なぜそのような評価に至ったかを、どれだけ要領よく、また簡明に記しているかが重視される。また第二に、筆者の考えに対する解答者自身の評価が、どれだけ説得力をもって論理的に展開されているかがポイントとなる。全体として、筋道のとった論理を展開する能力が中心的な評価の対象となるといえよう。

以 上